

## 白線病において検出される *Scedosporium apiospermum* に対する高純度軟化水およびパルミチン酸塩の増殖抑制効果

○大森啓太郎<sup>1</sup>、宮川まどか<sup>2</sup>、高井政貴<sup>2</sup>、田中あかね<sup>1</sup>、吉成佑治<sup>2</sup>、松田浩珍<sup>1</sup>  
(<sup>1</sup>東京農工大学・獣医分子病態治療学、<sup>2</sup>三浦工業株式会社)

【目的】 *Scedosporium apiospermum* は土壌などから検出される真菌であり、近年、ヒトおよび動物において様々な疾患を引き起こすことが明らかとなっている。本真菌は、ウマにおいて白線病に罹患した蹄から検出されることがあるが、本真菌に対する有効な予防法および治療法は確立されていない。これまでに我々は、市販の馬用シャンプーに比べ、液体石鹼の抗真菌効果が高いことを報告したが、本研究においては、石鹼を構成する各種脂肪酸塩と異なる水質の組み合わせによる *S. apiospermum* に対する増殖抑制効果を検討した。【方法】 蒸留水、水道水またはカルシウムイオンおよびマグネシウムイオンをナトリウムイオンで置換した高純度軟化水の存在下で、石鹼を構成する各種脂肪酸塩と *S. apiospermum* を培養し、その増殖抑制効果を測定した。【結果】 蒸留水存在下で各種脂肪酸塩の *S. apiospermum* に対する増殖抑制効果を検討した結果、パルミチン酸塩が最も強く *S. apiospermum* の増殖を抑制した。次に、蒸留水、水道水または高純度軟化水の存在下でパルミチン酸塩と *S. apiospermum* を培養し、その増殖抑制効果を比較した結果、高純度軟化水が最も強く *S. apiospermum* の増殖を抑制した。さらに、高純度軟化水に含有される各種イオンの *S. apiospermum* に対する増殖抑制効果を解析した結果、高純度軟化水にカルシウムイオンおよびマグネシウムイオンが含有されず、水道水および蒸留水よりも高い濃度のナトリウムイオンが含有されていることにより、増殖抑制効果が促進されることが明らかとなった。【考察】 本研究結果から、パルミチン酸塩を主成分とする石鹼と高純度軟化水を用いた日常的なウマの蹄の洗浄が、*S. apiospermum* に起因する白線病の予防法として有効である可能性が考えられた。